

地理的事象を公正に判断し説明できる力の育成

—ICTを活用した主題図の考察や発表し合う学習活動を通して—

特別研修員 地理歴史 藤巻 真 (高等学校教諭)

生徒の実態

地理的事象の因果関係を考察したり、文章で表現したりすることが苦手

目指す生徒像

地理的事象の因果関係を、位置や空間的な広がりに着目して、公正に判断し説明できる生徒

<手立て1> ICT活用による主題図の提示

農業地域区分図

透過機能を使用した、複数の主題図スライドの重ね合わせ

気温・降水量図



スクリーンを見ながら先生の説明を聞いてわかりやすかった。

重ね合わせたことで考察もしやすくなりました。

<手立て2> 主題図を考察するためのポイントの明示

生徒の記述の変化

前 雨が降っている地域には米など、少ししか降らない地域は小麦やとうもろこしなど、雨が降らない少漠などでは、牧畜をしている。

ポイントを意識したことで、より具体的な内容が記述できるようになりました。

明示したポイント

- ①位置 (方位・内陸、沿岸等)
- ②数値 (降水量等)・地名 (山脈名・河川名等)

後 年降水量が1000mm以上の地域では米、以下の地域は小麦、とうもろこしなどを育てている。
・タリム高原やタクラマカン砂漠などで牧畜をしている。
・1月の平均気温が10℃の地域で米二期作を行っている。
チンリン山脈とホワリ川をさかいに北が二期作南が米の

<手立て3> 考察内容を発表し合う場の設定

グループ内の発表活動

主題図の見出しを創作

考察内容や見出しについての友達の発表は、赤ペン(枠部分)で記入しました。友達の表現方法に触れて、表現力は向上し、地理的な見方・考え方も広がりました。



生徒が創作した見出し例

中国の農業に影響を与えるチンリン山脈とホワリ川
中国の知られざる農業の実態!?
降水量で変化する中国の農業、これは山脈と河川を分けてチンリン山脈

【成果】

- 主題図について、提示の仕方を工夫し考察時のポイントを明示したことで、生徒の記述が具体化された。
- グループ内で発表活動をすることで表現力が向上し、地理的事象を公正に判断できる力が付いた。

【課題】

- 考察する際に必要となる、基礎的な知識の習得を図る学習活動も必要不可欠である。
- 見出しを付ける活動は、教師が例を示しながら繰り返し実践していく必要がある。